



みんなドキドキ？

歯医者さんの**麻酔**の話。



歯科治療の中でも不人気度がだんかつ高い「麻酔注射」。

痛みを消し、治療を安全に行うために必須の処置ですが「痛みを取るための麻酔注射が一番嫌い！」なんて言われちゃうのがつらいところです。

「痛い」とか「怖い」とか言われやすい歯科では、この残念なイメージを返上すべく、痛くない治療のためになみなみならぬ努力を続けています。

そんないまどきの歯科の麻酔事情を見てみましょう！

普通の注射と違って歯科のはグーッと押されるような鈍い痛みがあつてつらいですよ？

骨に浸みこませて効かせる**浸潤麻酔**

歯医者さんの麻酔の代表格です。

歯を削るとき、神経を取るとき、歯を抜くときなどなどさまざまな治療で用いられている局所麻酔です。麻酔を効かせたい場所の近くに麻酔を注入し、歯を支える骨へと染み込ませて神経に届かせます。

広範囲にしっかり効く**伝達麻酔**

局所麻酔の一種ですが、浸潤麻酔や歯根膜注射よりも広く長く効きます。

あごを通る太い神経の近くに麻酔薬を注入するので、たとえば下あごの神経一カ所に注入するだけで、下あごの片側の広い範囲の歯に効きます。親不知の抜歯や、骨が厚くて浸潤麻酔がなかなか効かない方の奥歯の治療などに用いられます。

つつーとスムーズに効く**歯根膜注射**

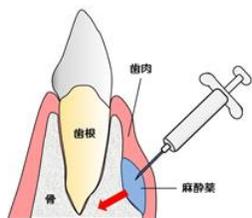
浸潤麻酔と同じく局所麻酔の一種です。

歯を包んで歯と骨をつないでいる靭帯「歯根膜」に麻酔薬を注入し、歯の周りに一気に効かせる方法です。

浸潤麻酔が十分に効かないときに用いられる方法で、追加の麻酔注射として行う場合もあります。麻酔薬が神経に届きやすくスムーズに効くのが利点です

浸潤麻酔の3つの痛み

- ・針を歯茎に刺すときのチクリとする痛み
- ・刺した針をさらに奥に進める痛み
- ・麻酔液をグーッと注入する痛み



浸潤麻酔

歯茎の下に麻酔液を注入し、骨へと染み込ませていきます。

注射による痛みを最小限に抑えることは、歯科治療にとってとても重要な課題です。「ある程度の強い圧をかけないと麻酔薬を歯茎の中に注入できない」という独特な事情を抱える歯科では、麻酔注射の痛みやストレスを可能な限り抑えるための手技と方法をつねに追求していますが、その改善策として開発されたのが「電動注射器」です。

電動注射器は、自動制御で麻酔薬をゆっくり一定の速度で注入できるため、圧迫痛の軽減に大変役立っています。

電動注射器

麻酔薬を痛みが感じにくい速度で注入することが可能。

